

令和 7 年度 第 3 回 鎌倉市観光基本計画推進委員会 会議録

日 時： 令和7年(2025 年)7 月 29 日(火) 14 時 00 分～16 時 00 分

会 場： 議員第 1 委員会室

出席者： 海津委員長、橋本副委員長、安部委員、光成委員、大津委員、小坂委員、湯澤委員、石山委員、
横山委員、菅原委員

事務局： 市民防災部 瀧澤次長、中澤課長、橋本課長補佐、夏戸職員、石渡職員、平井職員

事務局 それでは定刻となりましたので、ただいまから第 3 回鎌倉市観光基本計画推進委員会を開催いたします。私は、本日の司会を務めさせていただきます市民防災部観光課長の中澤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは進行に移らせていただきます。

本日の会議形式ですが、対面となっております。

それでは、議事に入る前に申し上げます。当委員会につきましては、鎌倉市観光基本計画推進委員会条例施行規則第4条の規定によりまして、原則公開となり、議事録につきましても公開していくことになります。ただし、委員会の決定により非公開の決定時は非公開とすることができそうですが、会議及び会議録は公開とすることによろしいでしょうか。

委員一同 ―異議なし―

事務局 ありがとうございます。

本委員会があらかじめ、公開となることを想定し、事前に傍聴者の募集を行い、3名の傍聴者がいらっしゃいます。入室していただいてもよろしいでしょうか。

委員一同 ―異議なし―

事務局 傍聴者の皆様に申し上げます。机上有る「傍聴の皆さまへ」と題された紙に留意事項を記載してございますので、目を通していただければと思います。特に本委員会の資料については、持ち帰りいただくことができませんので、メモ等をとられる場合には別の用紙にご記載ください。よろしくお願いいたします。

それでは会議に戻ります。会議を始める前にお手元の資料をご確認ください。

―資料の確認―

事務局 これより次第に基づいて会議を進めさせていただきますが、本日の委員会は委員 10 名中10

名のご出席をいただいておりますので、鎌倉市観光基本計画推進委員会条例施行規則第3条第2項の規定により会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。

それでは議事に入ります。規則第3条第1項の規定に基づき委員長が議長とされておりますので、海津委員長に進行をお任せしたいと思います。

委員長 それでは議題1から入りたいと思います。第2回委員会の振り返りと基礎調査等の進捗報告について事務局から説明をお願いいたします。

事務局 それでは資料1をご覧くださいまして、お話を進めさせていただきます。先日実施いたしました第2回委員会においていただいたご発言内容と対応方針案を示しております。

1つ目、次期計画の第3章が非常に重要な部分であり、さらに第1章から2章の流れが非常に重要であるという指摘がございました。こちらは、全体的に構成の見直しを検討しております。

2つ目、一つは江ノ電の分散の取り組みが有効ではないかというご指摘がございました。こちらは、実施計画のアクションプランの中にも含められるかどうか検討します。このように12個のご指摘について書かせていただきましたので、ご意見ありましたらお願いいたします。

次に基礎調査等の進捗報告ですが、第3期基本計画の検証、環境分析、デスクトップ調査等を実施し、骨子を作成しました。令和7年度は骨子からSWOT分析を行い、ワークショップを実施、パブリックコメントを挟んで計画策定という形で進めております。現在は第3回委員会というところで、赤囲みの議題の審議を予定しています。また、8月19日に学生向けのワークショップを開催予定です。

なお、前回の委員会で、観光計画に紐づく取り組みがどのように実施されているのかといったご質問がありました。それが参考資料の個別取組リストになります。上段左に目標、右側に施策分野、施策名称、対象課、事業目的という形で、事業を書いております。どういった施策分野でどういった施策が実施されているか、そしてその対象を記載しております。

事務局の説明は以上となります。

委員長 ありがとうございます。では、以上のご説明と資料を踏まえて、委員の皆様からご意見やコメントをお願いできればと思います。

委員 資料1の意見と対応案について、「検討します」になっている部分について、検討の結果はどこで聞くことができるのでしょうか。

事務局 アクションプランの中に記載予定のものもありますが、次回のパブリックコメントまでの期間にお示しできる予定でございます。今回の議論を踏まえて更新させていただきます。

委員 ありがとうございます。我々委員の意見の中でも矛盾しているとか、齟齬がある意見もあるので、全てを入れることはできないと思っています。この意見は取り入れませんでしたということも考えられると思っています。

委員長 ありがとうございます。具体的に、「実施計画で反映する」とあるところは、パブリックコメント以降、実施計画で記載するという事でよろしいですか。

事務局 例えば湘南モノレールや江ノ電を利用した分散化などは、具体的なアクションの話になってくるので、これはアクションプランに反映していくものになります。まずは計画の素案を固めて、その後施策を詰めていく形となるため、アクションプランを策定するタイミングでいただいたご意見を反映するというものも比較的多くあると思います。

委員長 それでは議題2次期計画の素案について、事務局から説明をお願いします。

事務局 資料2をご覧ください。今回ご確認いただきたい部分が3点ございます。

1点目、ご確認いただきたいのは、全体の構成です。第1章では計画の位置づけや鎌倉市の観光振興とはという文章を作成しています。第2章は、現状と課題ということで、昨年実施した調査や統計調査等を踏まえて、鎌倉市の情勢や鎌倉市の観光に対する意識を記載しています。これらを踏まえて、鎌倉市がどのように計画を実施していくのか、第4章で示しています。2点目、第2章の強み、弱みの整理と第3章への流れをご確認いただきたいと考えています。第2章では、世界の動向、日本の動向、鎌倉市の観光、現状と課題の整理という構成となっておりますが、現状と課題の整理の中で強みや弱みを導出し、第3章につなげる流れとなっております。

3点目は、基本理念についてです。今回6つの案をご用意しましたので、こういった理念が考えられるのか議論いただきたいと考えています。

基本計画の中身をご説明しますと、まずは「はじめに」、「計画の趣旨」、「計画の位置づけ」という形で記載しています。3ページ目は、「計画の改定プロセス」ということで、本委員会やワークショップなど、これまで実施した改定プロセスを記載しています。4ページ目では、鎌倉市の概要、5ページ目に「鎌倉市における観光振興とは」として、今後の鎌倉市において重視していくべきところを記載しています。

第2章以降は、前回のご説明と被る部分については割愛させていただきます。前回からの変更点として、6ページ目に外部環境、内部環境、強み、弱みを定義しています。7ページ目以降は、世界の動向から日本の動向を記載しております。12ページでは、観光の持続可能性に向けた取組として、オーバーツーリズムの問題について記載しています。また、13ページでは、自然災害のリスクということで、先日の洪水等も踏まえて記載しています。15ページ以降は、鎌倉市の動向ということで、人口動態から産業、財政情報、観光資源、宿泊施設の動向を記載し

ています。27 ページ以降は、横浜市立大学の調査を踏まえた市民の意識、30 ページ以降は、観光客の意識、35 ページ以降は、関係事業者の意識を記載しております。

39 ページ以降は、第 2 章の内容について外部環境、内部環境、強み、弱みを整理しております。41 ページには、それぞれの強みと弱みを踏まえた計画の目標を示しています。

43 ページには、基本理念を示す予定です。別紙の通り候補を提示しておりますが、この中から選んでいただいても、委員の皆様からご提案いただいても問題ありません。

その後、目標と施策分野及び成果の検証について記載しています。

本委員会では、全体の構成、そして第 2 章 3 の現状と課題の整理、そして基本理念についてご意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

委員長 それでは私から、第 4 章は本委員会で初出の情報もあると思いますが、パブリックコメントにはどこまでかけられるのでしょうか。

事務局 パブリックコメントには、計画の第 1 章から第 4 章まで全てを提示する予定です。

委員 中間見直しは非常に重要であると考えます。中間見直しについては、どのような仕組みの中で実施する予定でしょうか。

事務局 53 ページの一番後ろで、体制をご紹介させていただきました。計画が出来た後、その進捗状況を確認していく形になります。

委員 進捗状況の報告の途中には、既に第 5 期計画の検討が始まっているということになりますでしょうか。

事務局 次期計画は今回と同じようなタイミングで策定していく予定です。

委員 こうした方がいいというよりは、決まっているのであれば教えていただきたいということです。

事務局 鎌倉市観光基本計画推進委員会をベースに見直しを行っていくという形になります。

委員長 他にいかがでしょうか。

委員 3 ページに計画の改定プロセスが記載されていますが、ワークショップや事業者ヒアリングの成果がどこに入っているのか非常に重要だと思います。取りこぼしが気になっています。

事務局 ワークショップや色々な事業者ヒアリングの内容が、どこに記載されているかという点、意識調査は、昨年度実施した調査の結果が反映されています。ワークショップにつきましては、今後 8 月 19 日に学生のワークショップを実施予定ですが、個別の取り組み、まさに実施計画のアクションプランのところに関わってくところが非常に強いので、そちらに反映していくこととなります。事業者ヒアリング、事業者ワークショップについては、35 ページに反映されていますが、どこがどうリンクしているのかというのは明確にお答えができるような状況ではありません。いずれにしても、実施して終わり、反映しないということはしませんので、アクションプランに反映をさせるなどをいたします。この計画の中に入れるということではないかもしれませんが、意見をヒアリングしたということについては、補足的な資料として添付する予定であります。

委員 たくさんの方の生の声はとても大事だと思うので、うまく組み合わせて説得力を与えるようになっているといいかなと思いました。

それからアンケートに関連してですが、各アンケートの概要は、例えばいつ誰に対してどのように実施したとか、回収数、回収率、有効回答数のような基本的なことを入れておかないと、数字だけあっても多いのか少ないのかとか、回答した人の何割がこのように思っているのかがわかりません。そういった基本的情報は書いておくべきです。また、各グラフの脇に有効回答数も明示しておくべきかと思います。

事務局 3 ページに概要を反映するのと、グラフに記載する件数や単位を改めて確認するとともに、N 値、総数や有効回答数をしっかり反映したいと思います。

委員長 3 ページについて補足でコメントさせていただきます。例えばワークショップで出た意見を示す際は、ワークショップの名称を具体的に示したうえで、その結果と紐づく形で、本文中にも記載をするのが良いと思います。誠実にやっていますということがわかるようにしていただければと思います。これはコメントです。

委員 委員のご発言に同意します。非常に重要な話ですので、ぜひ反映させていただければと思います。

読んでいて気になった表現がありまして、見直していただきたい箇所があります。まず 1 ページ目の下から 9 行目あたりの「しかしながら」の段落のところで、「持続可能な観光からリジェネラブルな観光への変化」についてですが、持続可能な観光が前提となって進んでいますので、「持続可能な観光から」は削除した方がよろしいかと思います。それでここで言わんとしていることは、伝わると思います。同じようなことと言うと、5 ページ目の下から 4 行目、「そのため」のところですが、この「単なる物見遊山ではない」ということを書く必要はないと思います。「単に観光客数の量の増加を目指すのではなく」と言っていますので、これを「単なる物見遊山ではない」のところに持ってくる。「そのため、鎌倉の持つ多様性に溢れた資源の魅力を生かすこと

で、単に観光客数の量を目指すのではなく、質を高めることに主眼を置いている」というような話の構成にしてほしいなと思います。それから、図の 1、2 ページのところの一番下に関連計画が 3 つありますが、これは 3 つまとめてというよりも、3 つの四角で示した形にする方がよろしいかなと思いました。

グラフの表現はわかりやすくなったと思いますが、まだ推移のグラフで棒グラフよりも折れ線の方がいいだろうなというところがいくつかありますので直していただければと思います。例えば 9 ページの図 6 ですが、2015 年から 2024 年まで折れ線で表して、宿泊と日帰りをそれぞれの面積で表すとわかりやすいと思います。また 11 ページの日本の観光目標は、ここに置くと唐突な印象です。載せるのであれば、冒頭で日本の観光の政策なり目標のことを書くか、あるいは、第 3 章の観光の目標のところで、国の政策としてはこうなっているというような中で記載すればよいのかなというように感じました。

それから市民の意識についてのところですが、27 ページの図 26 や図 28 は情報量もあまりないので、図 27、29、31 があれば十分だと思います。これがあれば、地域による違いと鎌倉全体を比較して見ていくということができるので、図 26、28、30 は特に必要ないかなと私は感じました。

25 ページの交通渋滞については、文章の説明が足りないという気がして、例えば鎌倉市内の主要観光エリアについて、時間帯ごとに混雑状況を示したものであるとかが、最初にないと唐突な印象を持ちました。

39、40 ページについて、一覧表にしてチェックしてみたい気がします。基本計画の目次立てがあって、強み、弱みをクロスで取った表です。何章のどこで記載されているか丸をつけて表現すると漏れがないことや見に行く場所を確認できる索引の意味もあり、良いと思います。

事務局 確かに図 26、28、30 は、図 27、29、31 と全体の数がわかれば自明ですので、見直しをしていきたいと思います。そのほかご指摘いただいたところについても、反映できるところは反映していきたいと思います。

11 ページの日本の観光目標に対するご指摘のところを、もう一度お聞かせいただいてよろしいでしょうか。

委員 日本の観光市場の動向があって、その後に日本の観光目標というような形は座りが良くないという印象があるので、まず日本の目標や政策の話、それから現状、状況を紹介するとして、冒頭で日本の観光目標を紹介するとか、あるいは、鎌倉市のこれからの観光を考える上で、日本の観光目標はこうなっているということで、文章の中で紹介するということでもいいのかなという気がしたということです。

委員長 教えていただきたいのですが、折れ線と棒グラフを使用する場合、どのように区分するのが良いでしょうか。

委員 この計画に記載しているのは単純集計です。初訪問の観光客数とそうではない観光客がどのような回答だったか、関東圏の人たちと遠方から来た人たち、インバウンドの人たちがどういう回答の違いがあるのか、一步踏み込んだ分析をすれば、次の段階でどのような対策を取ればいいのか、リピーターの人たち、あるいは初めての人にはどのようなアピールをすればいいのか等につながっていくヒントが得られるということになろうかと思います。毎年、年度で数値を見るような場合、折れ線で示した方が分かりやすいと思います。

委員長 今、補足でおっしゃっていただいたところは、アンケートを取られたものから、さらにクロス集計をしたものを載せた方が良いというところの指摘となります。

委員 現在記載しているのは、単純集計であって、それを分析し、傾向を見ると具体的な対策の提案につながっていくということになります。コストも時間もかけて行った調査から、どれだけ意味がある、次の計画につながっていくような、知見が得られるかということと大事なことと思います。

事務局 ご指摘ありがとうございます。データをもう一度確認し、クロス分析について内部で取り組ませていただきます。

委員長 ご意見、いかがでしょうか。

委員 46 ページの目標ですが、目標の 1 で、「受益者負担の仕組みの導入も重要です」とあります。観光基本計画の中でももう少し踏み込んで、宿泊税だとか、ロードプライシングだとか、駐車料金から取るとか、あるいは目的税なのか、一般税なのか、目的税の場合は何に使うのかというところまで踏み込むのか、または「導入も重要です」と留めるのかを教えていただければと思います。

2 つ目は、目標 2 についてですが、オーバーツーリズムで、マナー啓発と場所の分散、時間の分散は非常に重要だと思います。この「観光に関するマナーや防災情報を多言語でわかりやすく」と書いてありますが、マナー啓発もあくまでも外国人のためだけと取られてしまわないかと感じます。日本人に対してもというのは、何らかの形で入れた方がよろしいのではないかと思います。

事務局 まず目標 1 ですが、受益者負担の仕組みの導入については、検討していくことを明言している状況です。具体的にロードプライシングにするのか、あるいは宿泊者から徴収するのか、細かいところについては、毎年度のアクションプランの実施計画で決めていきたいと思っていますので、「重要である」くらいでとどめる形になるかと思います。

目標 2 は、当然日本人に対してマナー啓発をしないということにはなりません。訪日外国人を

含む観光客に対して適切に訴求するということで、訪日外国人が中心ですが、日本人にも周知を行っていくということで記載をさせていただきます。

委員長 他にいかがでしょうか。

委員 40 ページの下から 2 つ目のところにも、特に「外国人観光客の増加に伴い迷惑行為」と書いていて、外国人観光客に原因があるという印象を与えることを懸念しています。一方で、外国人観光客対応としては、多言語やユニバーサルデザインなどを示さないと伝わらないですし、配慮が必要だと思います。また、使用している用語が例えば「訪日観光客」や「訪日外国人旅行者」など一致していないので、そこは統一したほうが良いと思います。

事務局 用語利用については統一をさせていただきます。ただ、日本人が多く来ていた数年前には起きていないような問題が、非常に多く起きています。実際に国も問題視しており、昨日も私は観光庁の方と七里ガ浜に行きました。人の庭に入って排泄行為をするなど、今まで起こっていなかったことが行われている状況です。住民もかなりストレスがたまって、非常に困っているような状況ですので、本当にしっかりやっていかなければならないというところでもあります。エビデンスはどうかというところもあるかもしれないですが、日本人が割合的に多かったときには、そういった問題が生じていなかったというところから、外国人を中心に、マナー啓発をしていくというのは、住民生活を守る上では非常に大事だと思っています。もちろん日本人観光客にもマナー啓発をしていきますが、外国人観光客にどちらかというと重きを置いて実施し、反映していきたいと思っています。

委員長 40 ページのご指摘いただいたところは、外国人観光客と迷惑行為というのをつなげて書かれているというところで、少し刺激的な表現になっている可能性があります。色々なご意見をいただきながら、検討いただいた方が良くかもしれません。

事務局 記載に関しては、一度検討させていただいて、表現を考えていきたいと思っています。

委員 質問が 1 点ございます。先日も水害があり、放送がありました。安心して移動ができる、成熟した観光都市であれば、多言語の放送は重要だと思うのですが、JR 鎌倉駅周辺ですと、中国語放送がとて多くなったと感じています。例えば、小町通りであったり、若宮大路であったりでは、英語や中国語、あるいは韓国語の放送が可能なのでしょうか。

事務局 鎌倉駅東口の観光案内所では、観光施設の閉館などの情報は貼り紙で案内しています。小町通りで放送設備を使ったアナウンスが可能かどうかは調整が必要で、現時点では明確にできるとは言えません。協力はお願いできると思いますが、そもそも放送設備があるかも確認が必

要です。津波情報などの防災関係のアナウンスは英語対応していますが、中国語・韓国語は未確認です。いずれにしても、観光客が多いので混乱のない案内方法を考えています。

委員長 できることとできないことはあるかもしれませんが、取り組む姿勢を示すことが大事だと思います。

資料について、分かりにくい点やご質問があれば、ご意見ください。

委員 何点か指摘します。まず、8 ページの図 4 のグラフが前回と比べて見やすくなっていますが、前回と出典は同じ範囲なのに数値が違っている点が気になります。他のデータも微妙に数字がずれているものがあり、信憑性が心配なので、数字の確認をお願いします。

次に、22 ページの日帰り客と観光客数の図ですが、宿泊率の折れ線グラフが 2020 年以降急激に伸びているように見えます。しかし実際は 2%から 4%程度の伸びであり、グラフの表現が誤解を招くので改善を希望します。

また、43 ページについて、これまで議論してきた基本理念に関する要素が抜けてしまった印象を受けます。以前の市民と観光客が手を握っている図などもなくなり、これまでの議論が反映されていないように感じます。

さらに、観光の課題について柱が明確に示されるのを期待していましたが、39~40 ページが逆に見づらくなっています。タイトルの下に強み・弱みが羅列されていた方が分かりやすいですし、自然景観や史跡の保護も課題として入れてほしいです。友好都市に関する指摘もありましたが、反映されていないようです。以上です。

事務局 多くの重要なご指摘をありがとうございます。まず、図 4 の数字の違いについては改めて確認します。図 18 の宿泊率の折れ線グラフについては、コロナ禍で観光客数が減ったものの、宿泊客は同じ割合で減っていないため、急激に伸びているように見えます。メモリを調整するなど、誤解を招かないよう改善します。GoTo キャンペーンの影響もあるかもしれません。

概念図については、以前の「市民と観光客の共生」のイメージを載せていましたが、説明がロジカルに難しいため、事務局で再検討し、議論を踏まえた新しい概念図を作成しましたが、これまでの考え方は踏襲しています。

取り組みの柱や 39 ページの強み・弱み分析については、他の委員のご意見も踏まえて、より見やすく修正します。

委員長 前回議論した 39 ページがさらに充実することを期待しています。基礎調査から出した項目だけが並んでおり、現在議論している内容が反映されていない点について、どう活用していくか検討が必要です。

事務局 ご指摘いただいた「自然を守る」「姉妹都市との関係性」などについて、計画に含めるべきか、アクションプランなど具体的な行動計画に落とし込むべきかは議論が必要だと考えています。外部環境・内部環境のどちらに位置づけるかも難しいため、毎年度の実施計画やアクションプランの中で、例えば交流観光や自然保護活動（ゴミ拾いなど）を具体的に盛り込む形が適切だと思います。

委員長 ご意見を踏まえて、アクションプランとして整理することが必要です。基本計画に何を入れるか、仕分けが不明瞭なまま計画が提示されているので、今後整理が必要だと感じます。

委員 皆様のご意見にほぼ同意します。

「はじめに」の部分について、市長の名前を出す予定とのことですが、文章が長く分かりにくい印象です。内容もまとめ以外は他の部分に書かれているので、中心部分は省略しても良いかと思います。また、説教的な印象もあるので、もっと簡潔で優しい文章にした方が良いと思います。市長名で出すならご検討ください。

事務局 ご指摘ありがとうございます。簡潔にしようと努力はしたのですが、確かに冒頭部分が分かりにくいと、その後の本文も読まれなくなる可能性があります。表現を改めて、簡潔にし、特に第3パラグラフは省略するなど、コンパクトにまとめる方向で検討します。計画に込めたい思いや感謝の気持ちを詰め込みすぎた部分もあるので、内容を整理します。

委員 市長の挨拶と1ページ目の内容が似ていて、あまり一貫性が感じられません。まちへの思いや価値を示す言葉は素敵ですが、計画案を読んでもその「意思」や「価値」が具体的に伝わってこない印象です。施策や理念は正しいと思いますが、全体として納得感が弱いのは、数字中心で記述されており、市民の声や具体的な取り組みが丁寧に盛り込まれていないためだと思います。これまでの資料にあった市民意識の高さや市民活動などが抜けてデータ中心になっているので、取り組みや生の声をもっと反映すべきだと改めて感じました。

5ページの「都心のベッドタウン」と断言する表現も気になります。本当にそうなのか、数字的にも、市民の意識的にも疑問です。暮らしの場としての価値や住みたいまちとしての思いをもっと反映すべきだと感じます。また、計画最後の部分についても、観光の質を高めることを主眼に置くという一文で十分であり、資源の磨き上げや市民と観光客の共生などの言葉は、計画全体で使っていないため、無理に入れる必要はないと思います。5ページも段落が多く読みにくいので、3～4段落でコンパクトにまとめるべきです。

また、7ページの「世界の動向」もその通りですが、日本の位置づけや国際観光客到着数など、コロナ禍を経てもアジアを代表する観光地であるといったような説明があると、より納得感が増します。国際観光客到着数の用語も適切に修正してください。

12 ページのオーバーツーリズムについても、国内外の事例を時系列で整理し、UNWTO の定義やガイドラインを説明した上で、各国・日本の取り組みをまとめると分かりやすいと思います。コロナ禍を経てレスポンスブル・ツーリズムが重視されており、日本でも宿泊税などの議論が盛り上がっています。例示の宮島訪問税は受益者負担ではなく原因者負担で少し特殊です。それをふまえた上で、標準的な流れをきちんと記載することが重要です。オーバーツーリズムや責任ある観光は今後の取り組みの中心となるテーマなので、基本的な部分をきちんと押さえておかないと浅い印象になってしまいます。また、自然災害リスクについては、南海トラフ地震など鎌倉固有のリスクを具体名で記載しても良いと思います。

15 ページの人口動態の図は、現状数年の値だけでは将来の課題が伝わりにくいので、2040 年など将来推計の図も入れるべきです。

22 ページの「湘南エリア」についても、範囲の説明や、湘南エリア全体での取り組みが政策レベルで反映されると良いと思います。

交通・住宅関係については、これまでの実験や取り組みの成果も記載し、説得力を持たせるべきです。

34 ページの校外学習児童生徒の満足度については、内容や対象を明確にし、コロナ禍以降の変化や体験型の取り組みが増えていることなども盛り込むべきです。

以上について、全てを採用する必要はありませんが、気になった点を挙げました。

委員 委員の指摘と同様、年齢構成については情報量が限られるため、老年人口増加や生産年齢人口減少が分かるように、推移を具体的に示すべきです。

13 ページの自然災害リスクの記述では、熊本地震の例が唐突なので、平成 28 年熊本地震ではなく、広く各地で災害が発生していることを示す形に修正してください。

また、自治体や DMO の観光計画に持続可能な観光の視点がほとんどなかったという表現は不適切なので、削除し、観光庁の流れを受けて JSTS-D を策定したという記述にまとめるべきです。

委員長 多くのご指摘ありがとうございます。反映できる部分は反映してほしいと思います。

基本理念についてはまだ議論が終わっていないので、皆様のご意見を活用しながらまとめていきたいと思います。前回資料では『住んでよかった、訪れてよかった』まち、鎌倉を理念とする案がありましたが、いかがでしょうか。

委員 15 ページの鎌倉市の動向についてですが、世帯数の表は人口動態とは異なるもので、あまり意味がないと感じました。今後の人口推計まで載せた方が説得力があると思います。また、棒グラフの長さがやたら長い印象です。

16 ページの財政状況についても、コロナ禍で一時落ち込んだものの、現在は回復傾向にあります。分析は鋭いですが、棒グラフは通常の長さで十分だと思います。

事務局 数値について再度確認します。お二人の委員から指摘があった通り、2040 年推計や年齢構成などについて修正します。

事務局 16 ページの財政状況については、今後の宿泊税や観光税の議論につなげるため、現状を記載しています。観光客数の増減に関わらず、市民税はむしろ少しずつ増加しているため、その点も記載するか悩みましたが、現状の財政について説明しています。

委員長 財政状況を見て「観光税が必要だ」と思うかは限られるかもしれませんが、財政を示すのであれば、その意図が伝わるようにしたいです。

委員 財政状況が良いように見えてしまうので、観光関連予算の具体的な比率や内容が分かる方が良いと思います。

事務局 ご指摘の通り、一般会計に占める観光予算の割合や全国平均との比較なども記載し、観光にかかる経費についても具体的に示していきます。年々増加しているなどの推移も記載を検討します。

委員 観光予算は全体の財政予算の 0.5%、約 3 億円ほどで非常に少ないです。

委員長 他の自治体と比較しても少ないです。

委員 26 ページの面積あたりの観光客数のデータは非常に分かりやすく、インパクトがあるので、もっと前面に出して、なぜ観光施策や改善が必要なのかを強調すると良いと思います。

委員長 面積あたりの観光客数は鎌倉の観光を考える上で重要な情報だと感じます。
最後に理念についてコメントをお願いします。基本理念について、3 つの候補が提示されていますが、それぞれの意図や違いについて説明をお願いします。

事務局 基本理念は、以前示していた『住んでよかった、訪れてよかった』まちをよりコンパクトにし、将来の意思を込めたものにしたいと考えました。「よかった」という言葉を外し、住民も訪問者も誇りを持てるまちを目指すという思いを反映しています。住む人・訪れる人を分けると対立が生まれるため、一つの円環で表現し、双方が誇りを持てるまちづくりを目指すという考えで案を作成しました。

委員長 今回の説明を聞くと、住む人と訪れる人の融合が図られ、以前の二重円から一つの円にまとまったということですね。ご説明ありがとうございます。

委員 基本理念については「鎌倉ラブアンドシェア」のようなパッケージ感があり、市民感覚が置き去りにされているように感じます。私は鎌倉駅近くに住み、市民として清掃活動などをしていますが、観光による恩恵は感じられず、町内会でもその声がよく聞かれます。鎌倉を「好きだから分かち合いたい」とだけラッピングするのではなく、市民の声も忘れないでほしいです。

事務局 ご意見ありがとうございます。住民の方々が観光客から恩恵を受けていないという声は多くいただいているのですが、観光政策の理想としては、住民も訪問者も鎌倉を大切に思い、観光を楽しんでもらいたいという思いがあります。その理想を持ちつつ、現実的な施策を計画の中で調整していくつもりです。私たちも住民と同じ気持ちで計画を作っていますので、ご理解いただきたいですし、それが伝わる計画にしていきたいと思います。

委員長 委員のご意見から、「大切にしたい」というキーワードが重要なのではないかと感じました。今の説明を踏まえて、他にもご意見があれば伺いたいと思います。

委員 理念案の選定は情緒的な部分が大きく、どれを選んでも賛否が出ると思います。事務局としては委員会で方向性やキーワードを選んでほしいと思っているはずですが、委員会で選定したという裏付けがないと、決定の正当性が問われるので、キーワードだけでも方向性を示すべきです。また、施策体系の文章には句読点が多い箇所があるので、印刷前に見直してください。会議としては、時間を使ってでも方向性を示すべきだと思います。

委員長 キーワードについてご意見はありますか。

委員 4番目までは「誇り」が含まれていますが、5番・6番の案では誇りがなくなっていて、より広い視点を感じます。個人的には5番か6番が良いと思いますが、他の意見も尊重します。

委員長 理念の変遷や図との対応を考えると、6番案が妥当かもしれません。

委員 私も同感です。過去のワークショップで市民の意見をまとめたものが反映されていないようですが、その内容は資料に入れないのでしょうか。確認をお願いします。

委員 本日基本理念を決める必要があるのでしょうか。

事務局 できれば方向性は示したいですが、市民ワークショップのまとめ内容がどう反映されているか説明できないと決定は難しいので、今日は必ず答えを出す必要はないと考えています。

委員 「訪れて誇る」という表現は分かりにくいので、同じく5番・6番案が良いと思います。

事務局 「誇り」という言葉は、シビックプライド(市民の誇り)を意識して使っています。
「住んでよかった」「訪れてよかった」だけだと一過性の印象があるので、「住み続けたい」「また訪れたい」といった持続性のある理念にしたいと考えています。持続可能な自治体経営にもつながります。

委員長 結局、愛着が本質となりそうです。

委員 シビックプライドは、郷土愛ではなく、愛着が一番近い日本語訳だそうです。

委員長 住民だけでなく、訪れる人にも愛着を持ってもらいたいということかと思います。
また、先ほどから出ているように、市民の気持ちを大切にしてほしいという意見もあります。

事務局 その点は重要だと考えています。
市民ワークショップで出てきたキーワードには、「つなぐ」「調和」「共生」「多様性」「再生」「再構築」などがありました。これらは施策分野で活かしたいと考えていますが、「つなぐ」は基本理念にも入れやすい言葉だと感じます。ただ、「郷土愛」「持続可能」「調和」「共生」などは総合計画的な印象もあるので、シンプルに「つなぐ」が良いのではと考えています。

委員長 キーワードとしては「つなぐ」「大切にする」「住み続ける」「訪れ続ける」「愛着」などが挙がっていますが、1つに決めるのは難しそうです。

委員 市民ワークショップでは市民活動に近いワードが多く出ていましたが、「誇れる」は住民ならともかく、訪れる人が誇れるかは疑問です。もっと良い言葉があれば良いと思います。

事務局 市民ワークショップでは「鎌倉の魅力や良いところ」「それを高めるには何が必要か」を話し合いました。理念そのものというより、強みや魅力をどう伸ばすかという内容だったため、直接的に基本理念につながるワードは少ないです。

委員 いくつか案を並べて選ぶのも良いと思います。「つなぐ」は市民同士のつながりだけでなく、鎌倉の価値を未来や次世代に「つなぐ」という意味で使うのも良いのでは。さらに、「喜び」という

キーワードも観光の本質に近く、「住まう喜び」「訪れる喜び」などは良い案だと思います。最終的には市民がしっくりくるものが望ましいです。

委員長 観光基本計画の理念選定は重要です。結論は出ていませんが、大事な提案が出ているので、この状態で次のプロセスに進めてよいか、ご意見を伺いたいです。

事務局 理念の部分は非常に重要なので、本日いただいたご意見を持ち帰り、改めて案を提示したいと思っています。

委員長 言葉も広がってきているので、次回以降さらに検討していきます。
では、次に今後のスケジュールについて説明します。

事務局 資料3をご覧ください。現時点のスケジュールでは、令和6年・7年に計画案作成やワークショップ、パブリックコメント、第4回委員会開催などを想定しています。今後、12月ごろに第4回開催予定で、その間にパブリックコメントを挟む予定です。

委員長 ご説明ありがとうございました。パブリックコメントを10月から実施予定ですが、修正点も多いため、このまま進めて良いか、もう一度会議を挟むべきか、ご意見をお願いします

委員 本日も多くの意見をいただきました。基本理念案については、6つは多いので、委員の意見を踏まえて3つ程度に絞るのが良いと思います。また、説明文も市民を大切にしている計画であることが分かる内容を追加し、率直な意見をもらえるようにしたいです。「住んでよかった、訪れてよかった」という表現も分かりやすいですが、市民が納得できるフレーズを選びたいです。

委員長 今後の進め方については、パブリックコメントの予定は変更せず、修正案を委員に書面で送り、メール等でフィードバックをもらい、修正したものをパブリックコメントに出す方法もあります。また、委員会を開かずに意見聴取する方法や、パブリックコメントの前にもう一度委員会を開催する方法も検討できます。どの方法が良いかご意見をください。
書面上でのやりとりで決めても大丈夫でしょうか。

委員 事務局としては、委員会開催の調整は大変なので、書面でのやりとりが負担軽減になると思います。

事務局 今後のスケジュールですが、素案から基本計画を作成した後、実施計画の議論も進めます。年間で5回の委員会開催を予定しており、11月末から12月に第4回で実施計画の打ち合わせ、第5回で最終決定を予定しています。パブリックコメントを12月にずらすと議会への報

告も遅れ、基本計画が固まらないまま実施計画の議論に入ることになるため、負担が大きくなります。夏休み期間は委員のスケジュール調整が難しいため、書面での対応を考えていますが、もし８月下旬に委員会を開催できるなら、パブコメの時期も大きくずらさず対応できます。

委員長 市民の皆様にも配慮が必要です。パブリックコメント後も計画案に修正は可能でしょうか。

事務局 パブリックコメント後は、基本的に素案の大幅な修正は行いませんが、誤りや表現の修正は可能です。だからこそ、事前に内容をしっかり詰める必要があります。

委員 修正はいつまでに対応可能でしょうか。

事務局 お盆明けくらいまでお時間をいただき、修正案を委員に送付します。

委員長 修正案を委員に確認いただき、議論又は個別に書面で意見を提出するなど、内容次第で対応を考えましょう。

事務局 修正案をご覧いただき、集まって議論が必要かどうか判断できるように、質問とコメント用の様式を用意します。ワード形式や手書きでも対応可能です。

委員長 その方向で進め、次回どうするかは８月のフィードバック次第で決定します。その他の議題に移ります。

事務局 今後のスケジュールについては、８月のお盆明けを目途に修正案を委員に送付し、意見をもらえる様式も用意します。やり方は事務局で調整しますが、流れについては追って示します。委員会は１１月末から１２月に開催予定ですが、日程調整は改めて連絡しますので、ご協力をお願いします。

委員長 それでは、これで本日の議事を終了いたします。委員の皆様、ご協力ありがとうございました。それでは事務局へお返しいたします。

事務局 委員長、司会進行をありがとうございました。以上をもちまして、本日の鎌倉市観光基本計画推進委員会は閉会とさせていただきます。皆様には、長時間にわたり活発なご意見をいただき、誠にありがとうございました。